

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(太陽ユニット)

事業所番号	2770600423		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホームあびこ		
所在地	大阪府泉大津市我孫子150		
自己評価作成日	平成30年2月19日	評価結果市町村受理日	平成30年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは地域の大切な資源であるとの観点から、積極的に地域への参加に重点を置き、その中で家庭的な雰囲気の中で快適に日常生活を過ごしていただくことは素より、ご入居者様と共に社会の一員であるとの自覚から、ともに近隣、地域の中に帰っていただけるようご入居者様と作り上げていくことを大きな目標としております。「認知症カフェ花水木の会」地域で介護に困っている方の少しでもお役立ちたい！認知症を患っておられる方 家族 サポーター 介護従事者などいろんな人が繋がる場です。地域包括支援センターと共同で3か所開催しています。
 ①泉大津商店街 風街…毎月1回第4週目水曜日 ②紅球院ハマダ…毎月1回第2金曜日 ③愛の家グループホームあびこ…偶数月第2土曜開催。「愛の家グループホーム通信」も地域にむけて発行しより多くの人に認知症の理解と、いつまでも住み慣れた地域で暮らして頂けるように活動しています。
 市民フォーラムにも講師として参加し、グループホームも住み慣れた地域で暮らす住居として紹介させて頂きました。

泉大津市内ではグループホームについては、当ホームと同一法人の経営する「いけうら」と合わせて2ヶ所しか無いが、行政の福祉部門との連携や地域との交流はよく出来ている。認知症に関連する市の会議(認知症部会他)には出席し、認知症の啓発活動(キャラバンメイト他)を行っている。地域イベント(秋のだんじり祭り他)にも見学するかたわら、当ホームでも地域に発信する行事(認知症カフェ花水木他)を開き地域と交流している。理念通り、入居者にはごく当たり前の生活を送っていただきたいとの思いで、出来ることは自分でしていただき出来難いことには職員が手助けをする方針が徹底している。食事についても献立は法人の管理栄養士が立て、食材はホームで購入し、利用者にも食べやすいように調理し、職員全員が同じものを食べ、介助しながらも場を盛り上げ家庭的な雰囲気を出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホームに提示しクレドは一人一人配布し朝礼時に唱和し日常的な実践に繋がっている。	当ホームの運営理念として、利用者が主人公でありかつ過去の生活の延長感を感じてもらうような意味を込めて、「その人らしい当たり前の暮らしがあるホーム」と定め、職員全員にクレドカードを渡し、地域住民にも色々なイベント時等で浸透させる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間の恒例行事をはじめ日常の行事に参加して頂き、町内の回覧板を持って行くようにしている。	町内会には以前から加入しており地域行事案内をもらい、地域の清掃に参加したり、地域交流花火大会や秋のだんじり祭りを見物して楽しんでいる。ホーム側も「認知症カフェ花水木」やもちつき大会をして住民と交流している。介護実習生や地域ボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ花水木の会(3か所)愛の家通信を発行し認知症の理解や良き理解者をつくるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議にて取り組み報告しアドバイスを頂き、サービスの向上に繋がっている。	毎年偶数月の後半の土曜日が日曜日に開催し、行政からは市高齢介護課や地域包括支援センター、地域からは自治会長、いきいきネット相談支援センターのCSWIに参加していただき、ホームの現状を報告しつつ意見交換会となっているが、利用者家族の参加が殆ど無い。	色々な要望や提案を聞くためには本人をよく知っている家族の参加は不可欠である。詳しい議事録を家族に送付して参加を依頼するとか家族会の日を会議開催日に実施するとかの工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年に4回の認知症部会、毎月1回のサポート養成本部会議に参加し協力関係を築くように努めている。	困りごとや分かり難い事例等の相談や、新情報を得るためには、市高齢介護課や地域包括支援センターと連携をとり解決している。市の会議(認知症フォーラム、認知症部会、キャラバンメイト本部会議)に参加して地域の認知症啓発運動に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階、3階を自由に行き来出来るように努めている。	法人作成の「身体拘束の取り扱いに関する要綱」等で毎年研修を繰り返し、職員もその弊害についてはよく理解している。ホーム内でもユニット会議や全体会議で身体拘束の有無やそれをせずすむ工夫等検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を設け、職員一人一人が意識を持ち虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修にて研修を実施、全員が知識を高める為学ぶ機会をもうける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、時間をかけ説明を行っている。疑問点は都度確認させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事参加に何か不安な事が無いかご家族に確認している。年1回のご家族様アンケートの実施している。	利用者からは、普段の何気ない会話や表情・仕草等でくみ取ったり、リラックスされている時(入浴時、昼食後等)で聞き出す努力をしている。家族からはアンケートをとったり、来訪時や家族会、ケアプランの変更時にお聞きしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やユニット会議や全体会議等で日頃から気になる事や意見や提案を聞く機会を設けている。	リーダー会議、ユニット会議および全体会議に管理者も出席し職員の意見を聞いている。職員のスキルアップのため、管理者による個別面談も設けて職員の意見や提案等を直接聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の良いところを伸ばす指導を行っている 分からない事は曖昧なままにせずすぐに回答し自信に繋げる努力を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議で研修を実施。外部研修の案内も提示している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サポータ講座や市民フォーラムの講師や地域での研修等は進んで参加しサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に寄り添うことを意識しご本人の表情や言葉から思いをくみ取り安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階に必ずセンター方式を使いながら、ご本人、ご家族様の要望をしっかりと聞きし、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を使いながら、ご本人様、ご家族様にとって何が一番好ましいのかを考えながら支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や食事の準備や片付け等助け合いながら一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回お手紙写真を送ったり、面会時や電話でご様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自治会の方やお友達を行事などに来ていただいたり、お連れしたり、毎月姉妹会等行っている。	家族の了解を得る等一応慎重にしているが、数日に1回程度は友人・知人が訪問してくれるので、楽しい時間を過ごしてもらっている。4姉妹の一人が入居しているので、毎月姉妹会を開いて励ます等ほほえましいケースもある。馴染みの場所としては利用者個々に家族が同行したりホーム職員がお連れしたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や症状を考慮しながら、席の位置等、孤立しないように考えご入居者同士が支え合えるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご自宅へ伺ったり、逆にご家族様がホームへ遊びに来て下さったり繋がりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様に協力して頂いたセンター方式を基に毎週水曜日のカンファレンス、必要と感じた時はご家族様にも参加して頂き話し合いを行っている	利用者の人生歴や生活環境、趣味やこだわり事を職員は把握しておき、それらと比較して現在の境遇での思いを寄り添うようにして聞き出している。いずれもケアプランに反映させるよう努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様がらのお話やセンター方式を活用し情報の収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	週1回のカンファレンスにて、日々の生活を観察し変化や気づきを共有し安心して生活して頂くように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週水曜日にカンファレンスを実施。日常的なモニタリングを個々の担当者が記入週1回の結果を全スタッフと共有し意見を取り組み、介護計画を作成している。	毎週水曜日をケアカンファレンスの日と決め、現状を細かく観察したケア記録やモニタリングの結果を参考にし、ケアプランの変更性の有無を検討している。原則モニタリングは3ヶ月に1度行いケアプランの変更性の有無も同時あるいは6ヶ月に1度は検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タイムリーに共有するため細やかな変化をノートに記入。週ペース1カ月のモニタリングを記入し実践と気づきを共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の要望や意見ご本人様の変化等は臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お琴や、ハーモニカのボランティアに来て頂いたり、町内の方達と行事を一緒に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間連絡が取れるようになっている。往診や受診で対応。体調の変化、気になる事は報告し指示を受けるようになっている。タイムリーにご家族様にも報告している。	往診してくれる協力医は2か所あり、従来からのかかりつけ医と3か所から自由に選択してもらうことができる。外部の医師受診は原則は家族同行としているが、できないときは事業所が同行したり、送迎に協力したり支援している。週2回訪問看護師が来て協力医と連携して利用者の健康管理に役立っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの変化や気になる事があれば医師に報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者とご家族様と連携を図り、情報交換をしている。ご家族様の同意があればドクターとお話も同行して出来るだけ早く退院できるように務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時点で重度化や看取りの指針についての説明同意を頂き、又かかりつけの医師と連携を図り早い段階から再度ご家族、ご本人様の意思を尊重し一つ一つ確認しながら終末期のあり方について方針を共有している。	「グループホームにおける看取りケアに関する対応」という冊子を玄関に置き周知を図っている。重度化した場合は医師と家族と事業所が話し合いを持ち、家族の希望があれば可能なケースでは看取り介護を実施している。直近5年間では9人の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけの看護師や職場内の看護師より急変時や事故発生時の対応の仕方について指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。近隣の施設とも災害発生時の避難場所などの協力体制を築いている。	6月と12月に消防訓練を実施、うち1回は夜間想定、1回は消防署立ち合いで避難訓練も行われている。近隣に参加を要請しているが、参加はまだない。備蓄は本社管理で十分に用意されている。火災以外の津波、水害、地震などの災害に関してマニュアルはあるが、実際の対策は考えられていない。	地域の参加については消防署等に依頼して、地域住民にとっても参考になるという経験の話や火災以外の災害についての対応を皆で考えることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格を把握し、それぞれのプライドや誇りを損なわないように意識している。	運営法人で接遇についての研修が催され、参加している。親しい中にも一線を越えない態度、言葉遣いを基本とし、職員間で注意しあえる風通しの良い環境作りを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物、お洋服、洗濯洗剤等々日常生活で様々な場面、ご本人様の思いや希望をご自分で選択できるように言葉かけや、環境を考え努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出かけたい、寝たい等の想いを可能な限り実現し、お一人一人の希望をかなえられるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お洋服選びや髪の毛のセット、月1回の美容院髭剃りの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、片付け等無理のない程度でお手伝いをして頂いている。	本社の管理栄養士がたてた献立に基づき、3人の調理師が買い物と調理を担当している。職員も同じ食卓で利用者と一緒に歓談しながら楽しく食べる姿を見ることができた。行事食、外食、野外でのBBQ、もよくある。クリスマスには近くの喫茶店を借り切って食事とカラオケを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、形態や水分の摂取を毎日チェック表に記入し、必要に応じて医師に報告し指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い週1回の歯科衛生士による、口腔ケアの実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を基に排泄パターンを把握にすよう努めている。行動、言動、表情も観察しながらトイレ誘導を行っている。	現在オムツ使用はなく全員がトイレで排泄している。オムツで入所した人もリハビリパンツ+パットに移行し、布パンツに改善した例もあるという。サインを見逃さず、ひとり一人にあった誘導の仕方支援をしている。利用者個々の排泄パターンもほぼ把握できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩、牛乳、きな粉牛乳等々個々に応じた支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のタイミングで入浴して頂くように声掛けしている。入浴剤、ゆず湯を入れて楽しんで頂くように努めている。	浴槽は一般家庭用の大きめのもので、介助しやすいとは言えないが、工夫と努力で安全で気持ちよい入浴と楽しい会話ができるように心がけている。一人ずつ自分好みのシャンプーや石鹸を使っている。菖蒲湯やゆず湯で季節感も感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々に応じてお昼寝をしたり、夜は電気調整、眠れない方にはホットミルクやお話をして安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の指示の基、薬の重要性は理解し服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付け、洗い物やドライブ、喫茶店、買い物、お一人お一人の生活歴を活かした趣味や役割が持てるように務めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「たこ焼きが食べたい」「コーヒー飲みたい」「どっか連れて行って」等々の声を大切にし一つ一つ実現できるように務めている。	日常的には近所の散歩、買い物などでよく出かけている。花見、盆踊り、ダンジリ見物など地域に出る機会も多い。過去には閑空に行ったりしたこともあったが、最近では看取り等多忙で機会がなかった。今年は遠方にも出かけていきたいとのことである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物先でご自身で支払ができるように務めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に協力して頂き、ご本人が掛けたい時に電話ができるにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	体内時計に合わせてまな板の音や匂い。皆様の話し声、笑い声一人でもさみしくないように環境づくりを意識して支援している。	フロアの中心にリビングとキッチンがあり、両側に個室が続いていて見通しがよい設計である。壁面には利用者の作品が展示されたりしてどこも明るく清潔で心地よく整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出窓でお話をしたり、日向ごっこしたり、ソファで編み物やテレビを見ながらお話をしたり、思い思いに過ごして頂けるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が大切にしていた物があれば、ご家族様の相談して持ってきて頂いている。ご家族様の写真を飾り、居心地良く過ごして頂けるように工夫をしている。	個室のドアにはわかりやすい表札がかけられている。室内はクッションフロアの床だがその上に畳を敷いて布団を使っている部屋、カーペットを敷いて布団の部屋、ベットの部屋と個人の好みが表示されていた。持ち物も仏壇や嫁入り時の鏡台など思い出の家具、写真、作品といろいろでその人らしい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の表札は目線に合わせる。食器を洗う際、都度スポンジと洗剤が目に入るところに置く。自立した生活が遅れるよう工夫している。		